

2022年3月18日 全7頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/3/18号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎

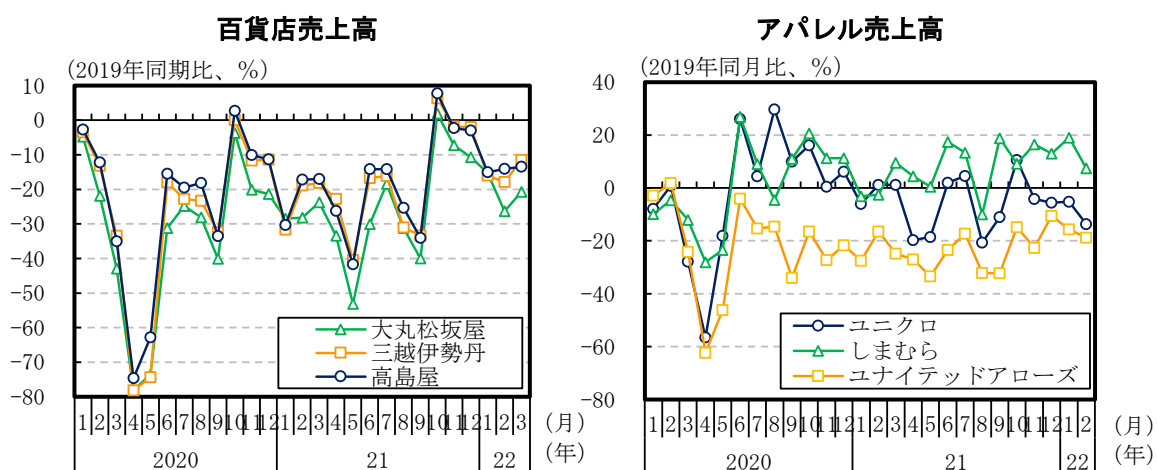
【要約】

- 2022年3月前半の消費は2月から小幅に回復したとみられる。3月6日に13県でまん延防止等重点措置（以下、まん延防止）が解除されたものの、地方圏が中心であったため回復は緩やかなものにとどまったとみられる。財消費は業種によってまちまちであった。百貨店や家電量販店は前月から改善したものの、スーパーやホームセンターはさえなかった。小売店・娯楽施設の入出は2月の中旬以降は緩やかに持ち直している。こうした動きを受け、外食・旅行・娯楽関連消費は緩やかに回復したとみている。
- 【小売関連】2022年3月前半の大手百貨店3社の既存店売上高は感染拡大前である2019年同期比で約1~2割減となった。主要都市でのまん延防止の適用が続くも、天候要因（大雪）が剥落したことでマイナス幅は前月から縮小した。また白物家電の販売が好調だった家電量販店の売上高は前月平均比+4.0%と増加し、コンビニエンスストアも同+2.2%と前月から増加した。他方、スーパーマーケットは同▲1.5%、ホームセンターは同▲0.8%となった。いずれもヘルスケア関連の販売が不調であった。
- 【サービス関連】2022年3月前半の新幹線輸送量は2019年同期比で5~6割減と2月からマイナス幅が縮小した。2月の旅客機の国内線輸送量は2019年同月比で7割減と1月からマイナス幅が拡大したものの、3月、4月の計画比での減便率は縮小する見込みである。まん延防止が残っていた18都道府県でも3月21日をもって解除されることから、県をまたぐ移動は回復傾向に向かい、宿泊や外食関連も持ち直すとみている。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 3 月前半の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同期比で約 1～2 割減。主要都市でのまん延防止等重点措置（以下、まん延防止）の適用が続くも、天候要因（大雪）が剥落し、2 月からマイナス幅は小幅縮小。
- ◆【アパレル】 2 月のアパレル 3 社の既存店売上高の伸び率は 1 月から低下。感染拡大による客数の減少に加え、全国的な低気温や降雪の影響で春物商品が苦戦。

図表 1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2022年3月は14日まで。

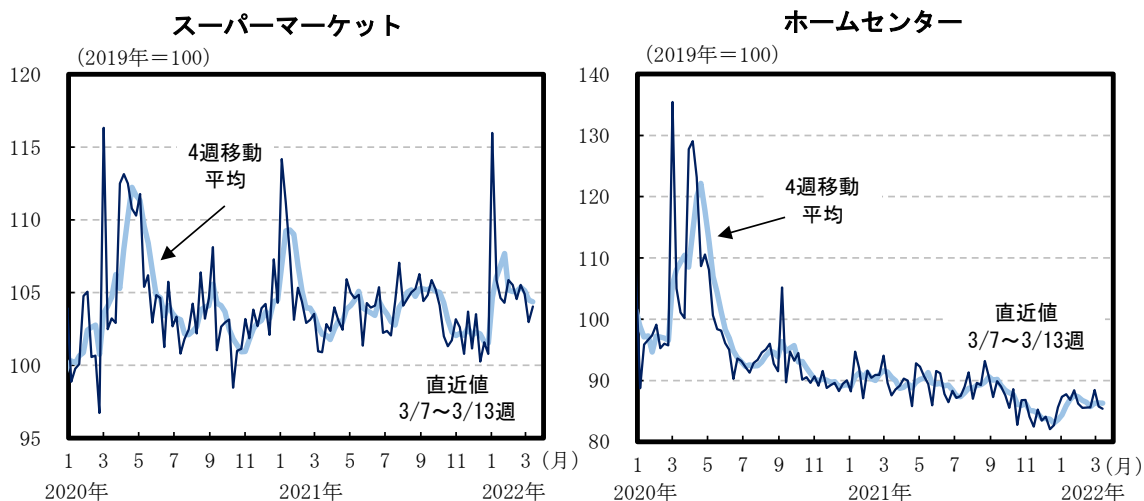
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】 3 月前半の売上高は前月平均比▲1.5%（大和総研による季節調整値）。化粧品やヘルスケア関連が全体を押し下げ。
- ◆【ホームセンター】 3 月前半の売上高は前月平均比▲0.8%（大和総研による季節調整値）と小幅に減少。雑貨が増加するも、ヘルスケア関連が減少。

図表 2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

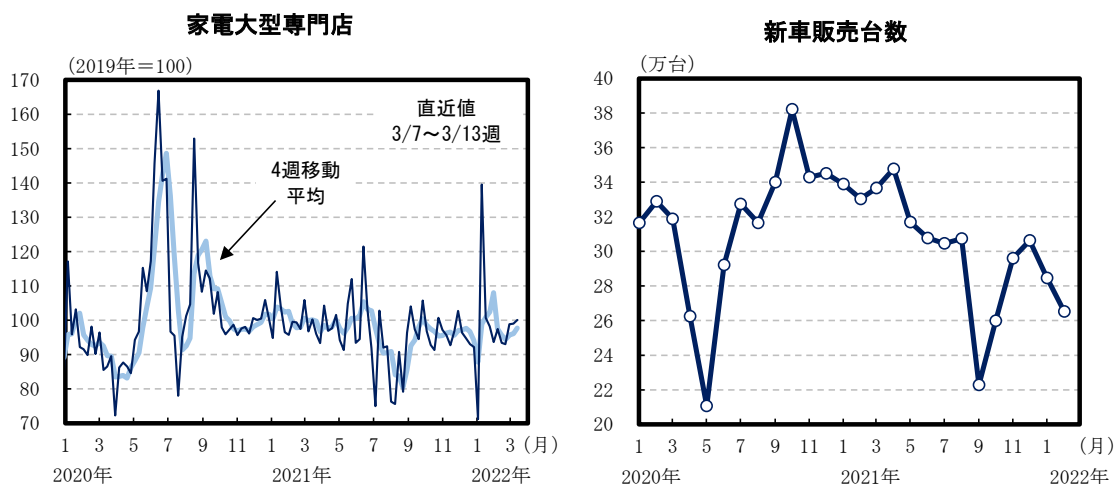


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 3月前半の大手家電量販店の売上高は前月平均比+4.0%（大和総研による季節調整値）と前月の大幅減から反発。洗濯機やエアコンなど白物家電が全体を押し上げ。
- ◆【自動車】 2月の新車販売台数は前月比▲6.8%（大和総研による季節調整値）と2カ月連続で減少。感染拡大による国内仕入先での部品供給不足で一部工場の稼働率が低下。

図表3：家電・自動車の売上高



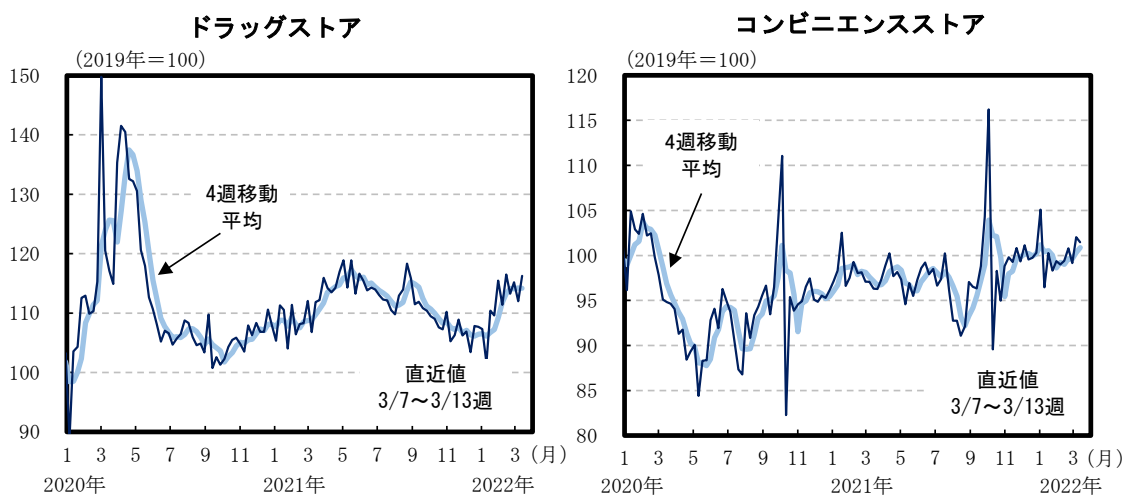
(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

- ◆【ドラッグストア】 3月前半の売上高は前月平均比+0.0%（大和総研による季節調整値）と前月から横ばい。食品などが減少もヘルスケア関連が増加。
- ◆【コンビニエンスストア】 3月前半の売上高は前月平均比+2.2%（大和総研による季節調整値）と緩やかな増加基調が続く。化粧品やたばこが押し上げ。

図表4：ドラッグストア・コンビニエンスストアの売上高



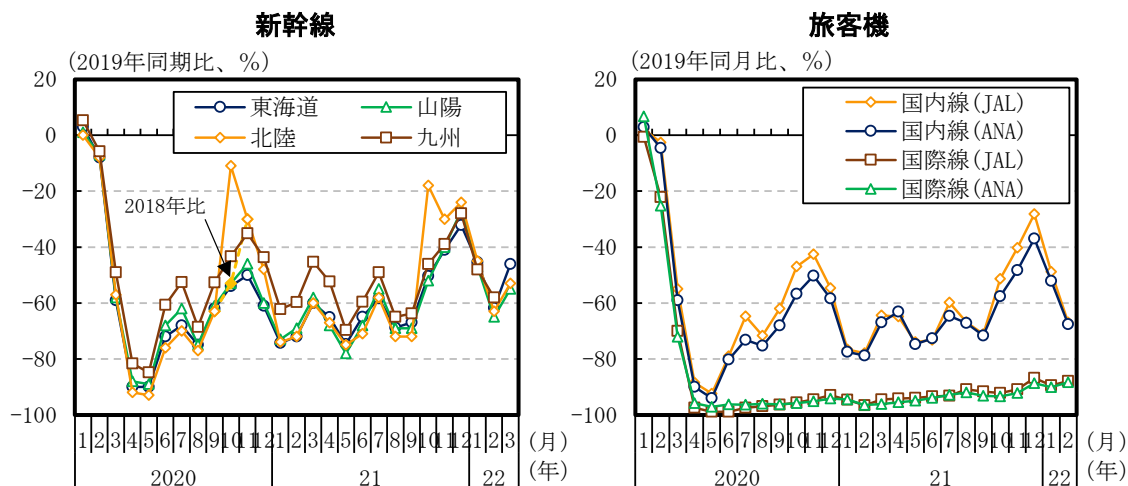
(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】3月前半の輸送量は2019年同期比で5~6割減と2月からマイナス幅が縮小。一部地域でまん延防止が解除されたことで移動需要が底打ち。
- ◆【旅客機】2月の輸送量は、国内線は2019年同月比7割減程度と1月からマイナス幅が拡大。感染拡大による需要の減少を受け、3月の減便率は計画比で2割程度の予定。4月の減便率は同1割程度と需要の小幅回復を見込む。

図表5：新幹線・旅客機の利用状況

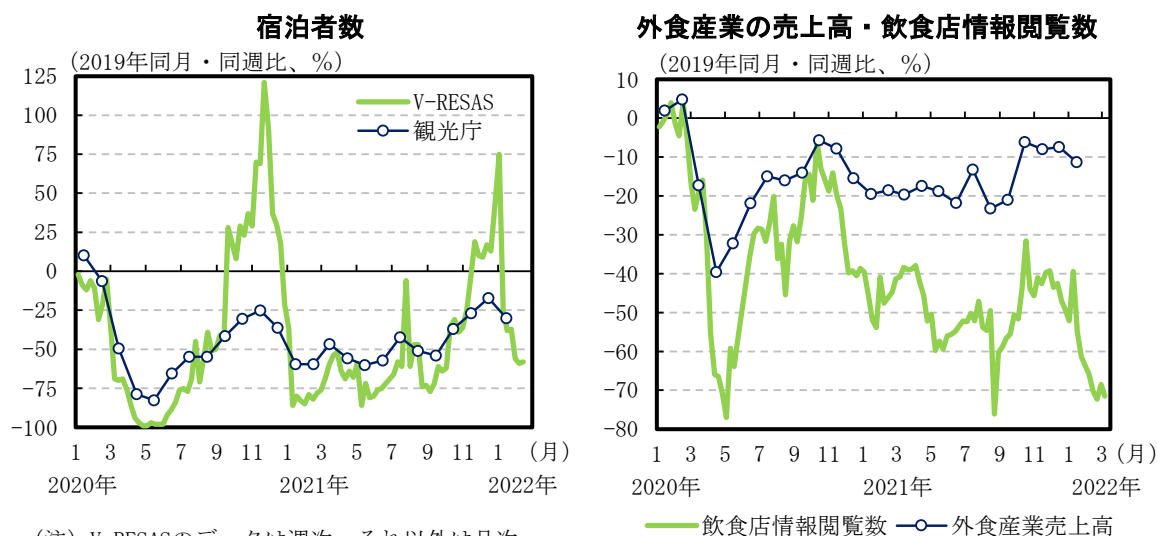


(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。2022年3月の東海は8日まで、山陽・北陸は14日まで、九州は19日まで。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】1月の宿泊者数(宿泊日数ベース)は2019年同月比▲30%と12月からマイナス幅が拡大。V-RESAS(宿泊開始日ベース)によると、2月上旬の宿泊者数は2019年同週比▲60%と1月からマイナス幅が拡大。
- ◆【外食】1月の外食産業の売上高は2019年同月比▲11%と12月からマイナス幅が拡大。2月の飲食店情報閲覧数は感染拡大を受けて急減し、2021年8月以来の減少率に。

図表6：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



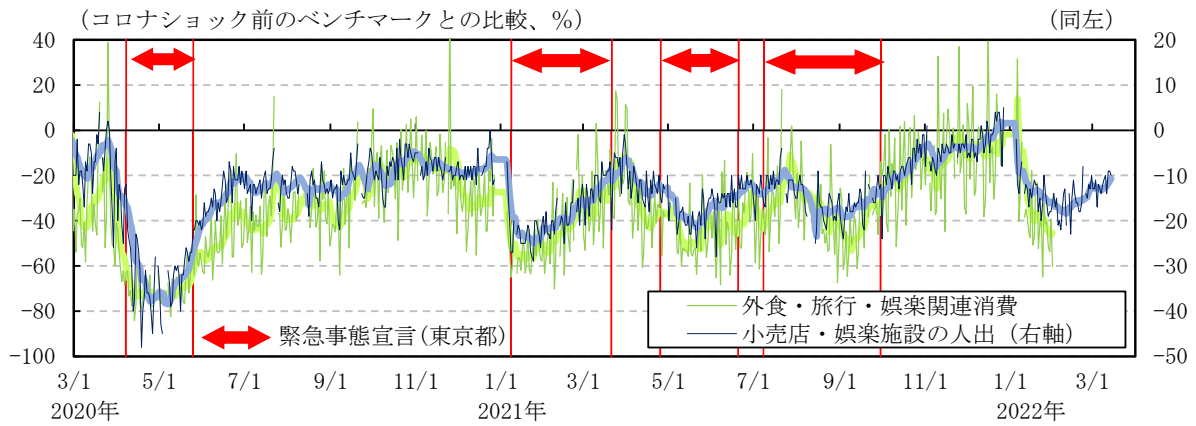
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

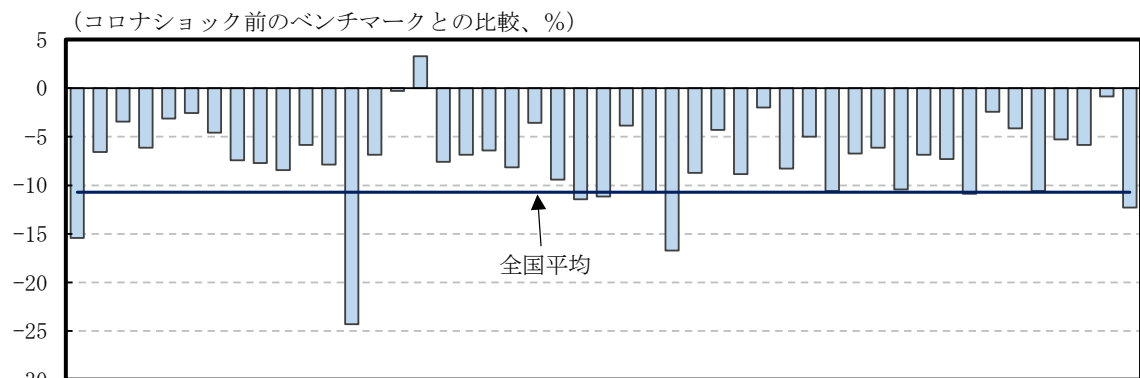
図表 7-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 3/14）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 7-2：小売店・娯楽施設の人出（3/8～3/14 平均、都道府県別）

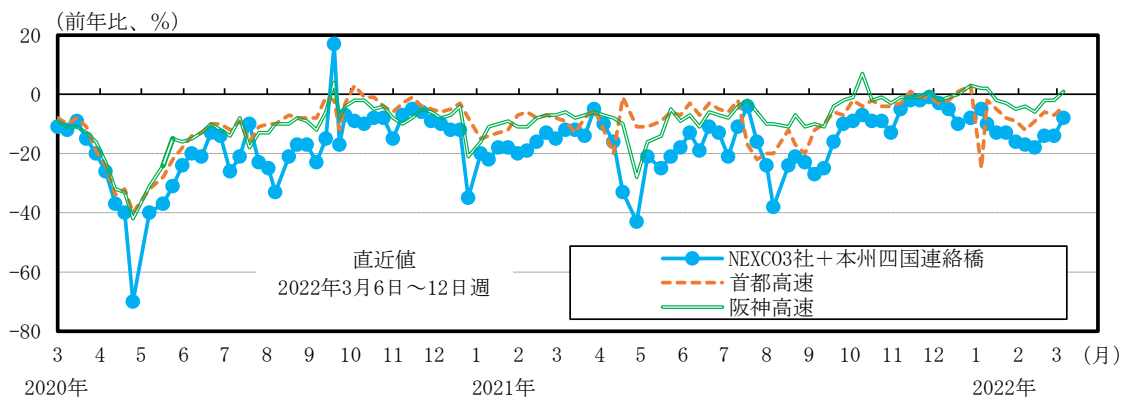


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和島島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄
道 川 山 山 島

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 8：高速道路交通量

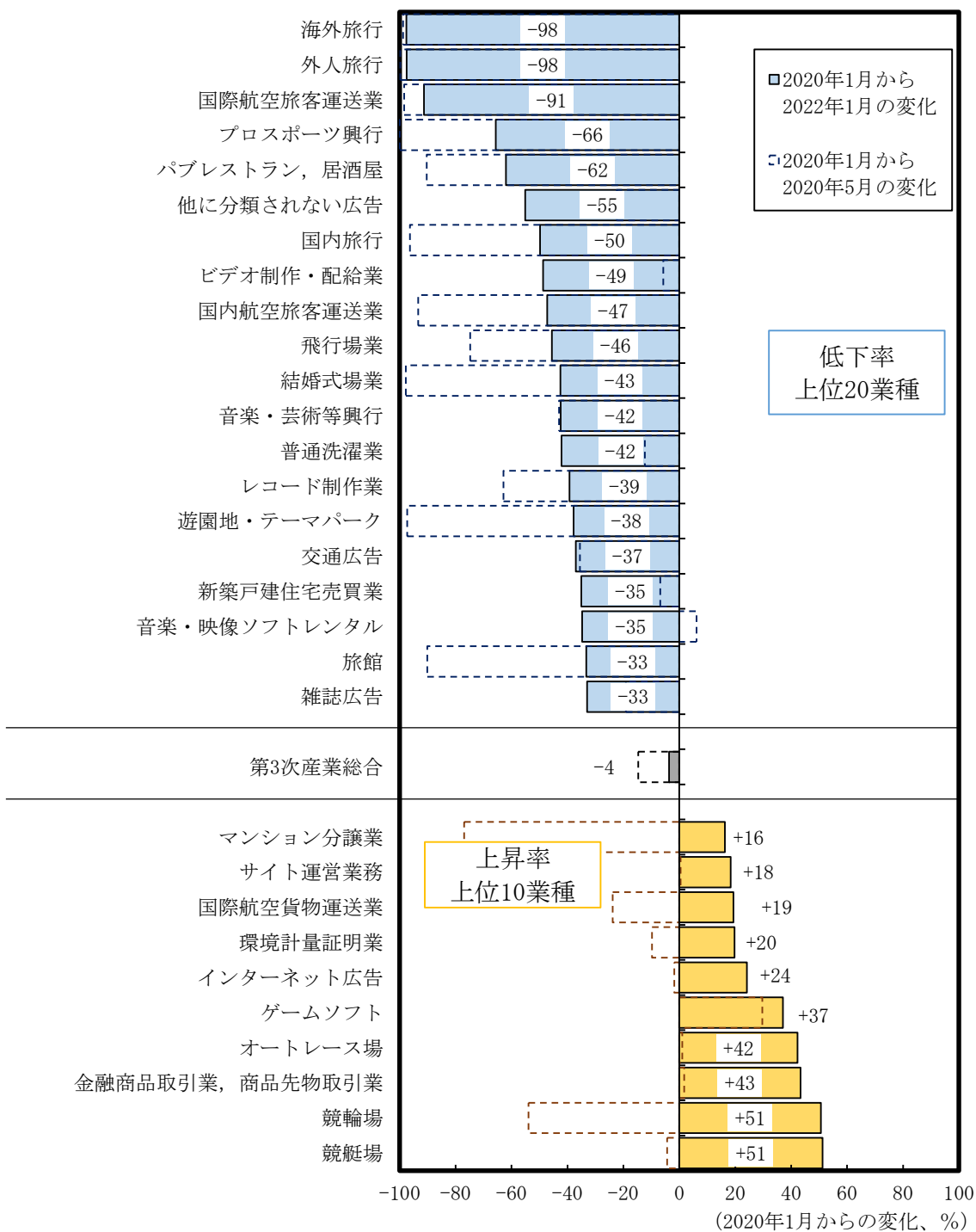


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

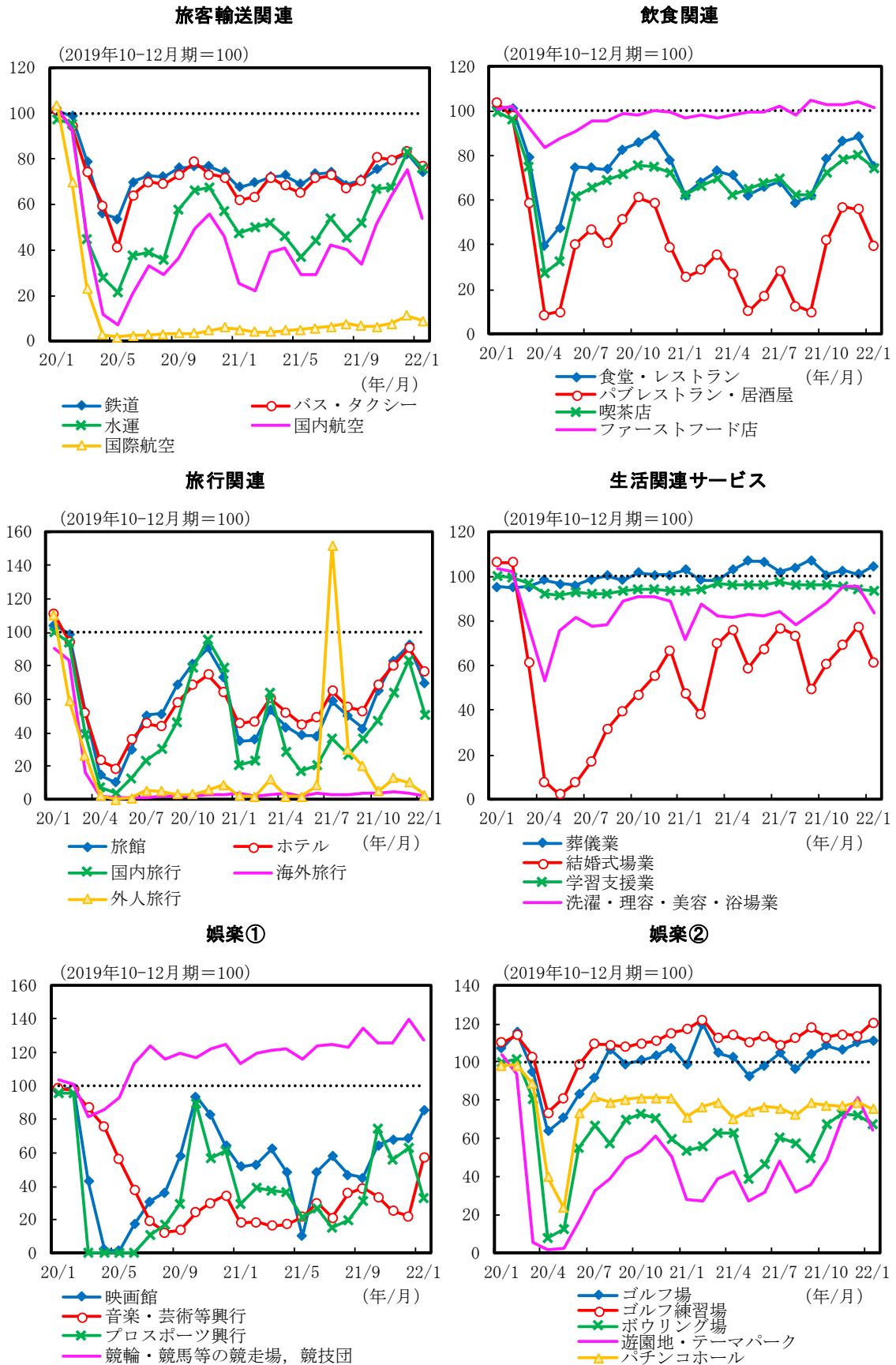
図表 9-1：第3次産業活動指数（2022年1月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年1月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 9-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成